



成隣だより

平成 28 年 1 月 8 日
第 9 号
昭島市立成隣小学校
校長 長 野 基

貴重な時間

校長 長野 基

新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

平成 28 年が幕を開けました。今年はリオデジャネイロでオリンピック・パラリンピックが開かれます。夏季オリンピック・パラリンピックの年は閏（うるう）年で 2 月は 29 日まで、1 年は 366 日あります。昨年は 7 月 1 日に閏秒があり、8 時 59 分 59 秒の次に 8 時 59 分 60 秒として 1 秒増やしました。地球の回転の仕方で、微妙にずれることは宇宙の神秘ですね。

さて、1 秒の重みというものを私たちは日常生活でそれほど気にすることはありません。しかし、毎年正月に行われる東京箱根間往復大学駅伝競走、通称『箱根駅伝』では、いつも 1 秒の重みが日本中に感動をもたらし、競技をしている大学生にプレッシャーを与えています。箱根駅伝は、前年の 10 位までに入った大学が今年の出場シード権を得ます。シード権のない大学は残り 10 校の出場枠をかけて、10 月に立川で行われる予選会に参加します。今年の予選会には 49 校参加しましたが、そこで 1 秒の重みに泣いた学校がありました。

予選会は 10～14 人 1 チームで 1 人 20 km 走り、その中の 10 人の合計タイムで順位を競います。10 月の予選会では、国士舘大学が惜しくも 11 位で出場権を得ることができませんでしたが、その合計タイムは 10 時間 12 分 14 秒でした。10 位のチームは 10 時間 12 分 4 秒だったので、10 人で 20 km ずつ走った合計の差はたった 10 秒、つまり 1 人 1 秒縮めれば 10 位に入れたのです。



本番は 2 日間かけて 10 人でたすきを繋ぎながら東京箱根間を往復します。ただし、1 位のチームの通過後 20 分経つと、前のランナーが来なくてもスタートする「繰り上げスタート」というルールがあり、母校のたすきが繋がらないのです。今年も悲劇は 2 日目、9 区から 10 区（最終区）で神奈川大学が 10 区のランナーにたすきを渡そうとした瞬間、目の前で繰り上げスタートにより走り去る仲間の姿を見ることになりました。時間にしてあと 4 秒早く来れば渡せたのです。23 km もの距離を 1 時間以上かけて走り、たった 4 秒のために涙を流すのです。彼らは 1 秒を縮めるために、1 年間日常生活で食事や時間など厳しく制限し、つらい練習を続けています。

改めて考えると、私たちは日々の生活で、どれだけ時間の大切さを意識しているのでしょうか。学生時代に試験勉強で、“1 分 1 秒を無駄にするな！”と思って勉強に励んだ方は多いかと思いますが、どこまで実践できたかは……。新しい年の初めに、やはり時間の大切さを意識したいと思います。昔から「時は金なり」という言葉もあります。コンビニに行っても時間は買えません。失った時間を取り戻すこともできません。今年こそは(?)計画的に、目的意識をはっきりもって生活したいと思います。皆さんはいかがお考えでしょうか。

3 学期は 53 日間しかありません。子供たちが新年度に進級するためにやり残したことはないか、親子で見つめ直すには良い時期ですね。今年も始業式で、3 学期は新しい学年への 0 学期という話をしました。有意義な一年となるよう、ご協力のほどよろしくお願いいたします。